

# かけはし

—小だより

No.11 23・9・22

## 五重塔と東京スカイツリー そして

校長 大村 亨 夫

5年生が保護者の協力のもと稲刈りをしました。6月に田植えしてから約3ヶ月。秋を迎え、稲は約束通り実ってくれました。のどかな飯豊の田園風景には、自然界の脅威と違った優しさがあります。影があるから光を感じるように、自然は私達に恐ろしさを見せつけながら、安らぎを教えているようです。と・・出だしは自然界ですが、今回のお話は建築。

澄川喜一さんという方がいらっしゃいます。1995年から2001年まで東京芸術大学の学長さんでした。そして、東京スカイツリーのデザイン監修をなさった方でもあります。ご存知東京スカイツリーは、2012年開業予定で墨田区に建設中です。完成すれば634mの〈自立式電波塔世界一〉になる平成の夢でもあります。

タワーのデザインを考える上で、澄川さんが直面した課題は「狭い土地に高い塔を建てなければいけない」ということでした。今の東京タワーの底面の広さは、約90m四方で、スカイツリーは70m四方。つまり、東京タワーより狭い土地に、東京タワーより2倍高い塔を建てることになったのです。

澄川さんは、「これは五重塔しかないな」とひらめきます。確かに、法隆寺の五重塔は、1300年以上、地震や台風で倒れたことはありません。どこの五重塔も、太い柱（心柱）がかんぬきのように中心部を貫いていて、他の柱はそれを取り巻くように、てっぺんまで組み上げられているのだそうです。繊細な柔軟性があり、美しい構造。

五重塔の構造を、タワーデザインに結びつけた澄川さんのエピソードです。

1957年、東京都台東区の谷中霊園にあった五重塔が、何者かの放火によって焼失します。この時、澄川さんは、学生として谷中霊園近くの下宿に住んでいました。火事の後現場に駆け付けてみると、小さい部材は真っ黒に焼け落ちていました。しかし、心柱と太い材料が残っており、塔の構造をはっきりと見ることができたのだそうです。彼は、焦げた匂いが漂う中、焼け残った塔の構造を必死でスケッチしました。「弁慶が総身に矢を受けて立ち尽くしている」

そんなふうに見えた澄川さんは振り返っています。

日本の先端技術を結集して、完成する東京スカイツリー。もし、谷中霊園のそばに澄川さんが下宿していなかったら。もし、五重塔が火事にならなかったら。もし、焼け落ちた五重塔を澄川さんがスケッチしていなかったら。私は、このエピソードから、人生の偶然が絡み合った先にあるスカイツリーに、人間臭い物語を感じたのです。澄川さんは言っています。「新しいものを作り出す時、子どもの時に調べ、体験した何かの記憶があざやかによみがえります。」何に役立つかわからない故郷での体験。文化と自然。でも、それは子どもの大切な根っこであり、いつの日か実を結ぶための力なのかも知れません。

五重塔とスカイツリー。そして、稲刈り。3つの話が結びつきました。(ほっ)

## 楽しかった修学旅行

6年生は、9月1日・2日の2日間、会津若松・日光面へ修学旅行に行ってきました。台風12号の影響で時折雨の中の見学になりましたが、計画通りに実施できました。1日目の班別自主研修では、会津若松市内の歴史や文化に触れ、充実した学習ができました。午後は会津藩校日新館の歴史を学び、座禅体験をしました。

2日目は、宿泊地の鬼怒川温泉から日光に移動し、世界遺産である日光東照宮や子ども達が楽しみにしていた東部ワールドスクエアと日光江戸村を見学しました。子ども達は男女仲良く班員同志が協力して大いに楽しむことができました。



\* 本校のホームページの学年の窓に修学旅行の写真を掲載しておりますのでご覧下さい。

## ほほえみ活動

9月11日、6月に植えたハーブの収穫とティーパックづくり、お茶会を行いました。ハーブのさわやかな香りに包まれ楽しいひと時を過ごすことができました。

これまでに植え付けや除草作業などJ A青年部の方々をはじめP T Aの皆様にご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。



## 早朝作業ありがとうございました

9月10日(土)、親子P T A早朝作業を行いました。作業の前に、全員でラジオ体操を行い、さわやかな汗をかき、それぞれに分担された作業を行っていただきました。

今年度は、グラウンドの除草作業の外に550コースと体育館広場の芝生はり、側溝の泥上げもしていただきました。

お陰様で、整った環境の下、学習や運動を行うことができるようになりました。様々な行事が立て込んでお忙しいところご協力いただき、心より感謝申し上げます。



グラウンドの除草作業



芝生化した550コースを走る子ども達

## 稲刈り体験

9月15日、6月に田植えをした学校田の稲が実り、5年生の子どもたちは、稲刈りを体験しました。田んぼの先生方に稲の刈り方を教えていただいた後、一人一人が鎌をもって田んぼに入り、稲刈りに挑戦しました。

